

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133	22-024	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Individual and Contextual Characteristics Associated With Alcohol Use Among Brazilian Adolescents ブラジル人青年における飲酒に関連する個人および社会的状況		
執筆者		
Arruda PSM, Silva AN, Rinaldi AEM, da Silva LS, Azeredo CM.		
掲載誌		
Int J Public Health. 2022 Jun 2;67:1604397. doi: 10.3389/ijph.2022.1604397. eCollection 2022.		
キーワード	PMID	
健康教育、青年期、アルコール摂取、教育機関	35719735	
要 旨		
<p>目的：世界中で青年期の飲酒が問題となっているが、ブラジルでも若年からの飲酒が問題視されており、これらは家庭や学校環境の影響を受けやすい。本研究では、ブラジル人青年における飲酒行動歴（飲酒経験の有無、過去 30 日間の飲酒、これまでの酩酊状態のエピソード）と、個人および社会的状況との関連を明らかにすることを目的とした。</p> <p>方法：ブラジルの 2015 年全国学校健康調査に参加した 9 年生（100,914 名、71.0%が 14-15 歳）を対象とした横断研究。各飲酒行動歴と個人および集団の特徴との関連を、社会人口統計学的要因により調整した多変量ロジスティック回帰分析により評価した。調整に用いた社会人口統計学的要因は、性別、年齢、母親の学歴、肌の色、所持品スコア（固定電話や携帯電話、パソコン、車などの所持品から算出した収入の代替スコア）、自身の喫煙・薬物使用とした。</p> <p>結果：男子学生と比較して、女子学生の方が、飲酒経験(オッズ比[OR]=1.09; 95%信頼区間 [95%CI]=1.05-1.12)や過去 30 日間の飲酒(OR=1.09; 95%CI=1.05-1.13)のリスクが高く、酩酊状態のエピソード(OR=0.90; 95%CI=0.87-0.93)のリスクは低かった。私立学校と比較して、公立学校の生徒の方が、飲酒が多かった。公立学校では、飲酒が校則で禁止されている場合に、望ましくない飲酒行動リスクが高かった。両親・友人・自身の喫煙、友人・自身の薬物使用も、飲酒行動リスクが高かった。</p> <p>結論：家族や友人の合法・非合法的薬物使用、学校での飲酒禁止は、望ましくない飲酒行動の高リスクと関連した。学校における適切な飲酒の予防・制限プログラムと、その継続的な評価が必要である。</p>		